

校友会報 116



| | | |
|--------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 目次 | | |
| 校友会と学園の強い連携を願って 南雲 芳夫.....1 | 学園の活動状況.....8 | 平成7年度 事業計画(案) 収支予算書(案).....16 |
| 学園の近況について 北郷 薫.....2 | 支部だより.....9 | 阪神大震災特集.....17 |
| 3D手話翻訳システムを目指して 長嶋 祐二.....4 | 部会報告.....10 | 兵庫県地区被災地居住者名簿.....17 |
| 学園だより.....5 | 校友会新役員紹介.....11 | 阪神大震災踏査報告 小嶋 勝朗.....19 |
| 学園本部 大学 専門学校 高等学校 | 総会開催のお知らせ お知らせ.....13 | 阪神大震災に遭って 石田 俊文.....21 |
| | 平成6年度 収支計算書 貸借対照表 財産目録.....15 | |



校友会と学園の強い連携を願って

社団法人 工学院大学校友会
会長 南雲 芳夫

ついこの前、なつかしい顔が集い、聞き覚えのある声を耳にしたあの神戸の街が、神戸の港が……。私達の第11回の校友会全国大会を見事に仕上げてくださいました大切な旧友達の身の上にこんなひどいことがふりかかってしまった。友の一人一人に励ましの声をかけ、せいぜい義捐金をなにかしかに寄せるぐらいのことしかできない。自分が砂粒のように小さく見える。

兵庫県支部の校友各位に対し、改めて昨年の全国大会開催の労に感謝申し上げます。そして、この未曾有の大震災による諸々の悲しみを共に耐えるために、及ばずながら心からの黙禱を捧げます。

六甲の紅葉の連山はよかった。見慣れた安心できる日本の美だった。港の方の街並は潮風と共に何やら異国風の香りと光を漂わせていた。非日本の美だった。内と外の世界のつながりを感じさせる内実が神戸にはあった。平清盛が対宋貿易のための港をつくったのもこの辺りであり、溯って遣唐使の船もここから出発し帰港したかもしれない。こんな歴史の積み重ねが今の神戸の時間の背後にある。住む人々も異髪異顔が同居していることが当たり前という振る舞いであった。しかし、この人並みの神戸への漠然とした感想の中で、工学院が誇る「技術の学びの場」としての将来像が私なりに刺激されたのである。

この3年ばかり校友会活動の中核の仕事をする機会を与えられたお陰で、世界に誇る工学の權威に私自身が啓発される幸運を得た。その一人でもある北郷理事長、大橋学長は研究者としての素晴らしい業績に基いて、「グ

ローバル化」が21世紀を象徴するキーワードであると、お会いするたびに熱情的に説かれている。教育者としてのその点に心をくだかれておられるのであろう。

私の願う学園の将来像も「グローバル化」に結びついている。神戸の街はやがて立ち上がりもっと大きな窓や扉を世界にむかって開くだろう。私達の学園も持っている技術を外に発信するだけでなく、世界の技術が当たり前顔をして同居する工学教育の場になっていてもらいたい。そのためには工学という枠組を越える学園に成長していくのかもしれない、などと次から次と熱い思いだけはふくらんでいく。

校友会会長に改めて推挙された御挨拶が後回しになりましたが、兵庫の校友に免じてお許し願います。校友会の活動は校友相互の親睦をはかることに止まらず、学園と校友をさらに緊密に結ぶ役割を荷っています。校友会は学園の成長に貢献することをいつも考えていなければなりません。その一方で、学園がその実学という特質を生かして、実業人としての多数の校友に「生きた情報」や「仕事に生かせる新技術」を提供する「卒業生にも身近な学園」を目標とすることを願う次第です。その情報や技術がグローバルな価値をもっているなら、これはすばらしいことです。

今後3年間、真心をもって愚直に校友会の発展に尽くす所存です。至らざる場合が多々あります。校友各位のお叱りをいただけたら幸いと思っております。来年の秋には第12回校友会全国大会を学園で開催する予定です。諸々のことに御協力を心からお願いして筆を置きます。

学園の近況について

理事長 北郷 薫

まず、本年の1月17日に阪神地方に発生した地震により神戸市とその近くに在住されていた校友の方々が大きい被害を受けられましたことに対しお見舞いを申し上げます。一日も早く回復されますようお祈り致します。本学園と致しましても、及ばずながら被災地の援助活動にはいろいろの形で参加致しております。

本学園の校友の皆様が全国的に多方面において活躍していただける実績が認められ、昨今の就職難の時代においても大学、専門学校、高校ともに就職は好調です。

いま日本では以前から言われていた15才人口あるいは18才人口の急減の時期に突入しています。18才人口については平成4年(1992年)に205万人の最高値から平成6年には186万人に減少し、その後も減り続け平成20年代には120万人台まで減少します。15才人口はこれより3年早いペースで変化します。従って通常の流れに従っていたのでは、各学校の入学志願者の数も、大学、専門学校は18才人口の、高校は15才人口の減少に合わせて減少することになります。

平成6年度の本学園の各学校に対する入学志願者数は大学、高等学校ともに前年度の数より増加しました。これは、大きい成果であります。専門学校の入学志願者は前年度の数よりいくらか減少する見込みです。専門学校は、今後、さらに研究して特色を目立たせて発展させる必要があります。

何故、多くの大学や高校の入学志願者が減少の一途をたどっているなかで、本学の大学と高校の入学志願者が下げ止り、わずかではありますが増加したのか。それは永年にわたって、本学園の教職員の皆さんが本学園の発展のために努力してきたこと、在学中の学生、生徒諸君の活動、卒業生の校友の皆様が社会における活動が認められてきたことが重なって力を発揮したのであります。

伊藤学長時代の昭和55年(1980年)から「学園将来計画」の検討が開始され、その時の全教職員の英知を結集して昭和58年に「学園将来計画大綱」が発行されました。この「大綱」は、本学園が18才人口の変動に耐えながら発展するための基本方針を決定したものです。

新宿校地の再開発により、新宿に新校舎とオフィスビルを建設し、新校舎内の研究・教育設備を刷新すること、八王子校地も再整備して新しい研究・教育設備を備える

こと、学園の教育、研究内容について自己批判して改革すること等が同「大綱」の基本方針でした。

とくに、新宿校地再開発工事の主要部は18才人口が最大を示す1992年(平成4年)までに終了していることが要望されていましたが、その望み通りに新宿新校舎の高層棟が1989年、中層棟とオフィスビル(エステック情報ビル)が1992年に竣工しました。

八王子校地においても大学では多くの新研究棟が建設され、高校には新体育館が建設されました。

国公立の別なく、学校施設の老朽化を改善する必要が叫ばれているなかであって、本学園は自主的な工夫によって、施設の刷新を実現したのであります。

教育、研究内容の改革も昭和50年代から続けています。この改革の方が建物や設備の刷新よりも難しく遅れているのは事実です。しかし確実に進行しています。

ここで、それらを逐次申し上げることはできませんが、別の広報紙「窓」などをよくご覧になっていただきたいと思えます。そのうち一つだけとり上げますと大学院の充実があります。本大学は大学院修士課程を昭和39年(1964年)に、博士課程を、昭和41年(1966年)に開設しましたが、入学する学生数も少なくどちらかという低迷していた期間が長く、1990年(平成2年)でも修士課程で1、2年合わせて97人でした。最近、大学院が急速に発展し、1995年度は、1、2年合わせると約400人近くの修士課程在生になりました。文部省のいう「倍増計画」は本学においては簡単に達成でき4倍増を達成しています。これに満足することなく大学院はさらに充実する方針です。

これからの高等教育では大学院が大切であり、大学院が充実すると、大学学部、専門学校、高校にも良い影響を与えて各学校の入学志願者も増えます。

学園の宣伝は大切です。しかし、「空」宣伝であっては逆効果です。本学園のように校舎、設備を刷新し、教育、研究内容を刷新、充実しながら、その内容を「よく見てもらう」という宣伝であるべきです。

いうまでもなく、本学園における教育、研究の充実・刷新は十分ではありません。これから成すべきことは山積しています。われわれはそれらの問題点を解決しながら前進しています。

校友の皆様が益々のご活躍をお祈りします。

3 D 手話翻訳システムを目指して

長嶋 祐二
電子工学科 昭和53年卒

1. 国内における手話の現状

わが国において、何らかのかたちで「聞こえ」に障害をもつ聴覚障害者が、平成3年度の厚生省調査によると約35万3千人にのぼるとされている。さらに、難聴者も含めるとその人数は10倍にもふくれあがるといわれている。聴覚障害者は、音声と聴覚による情報伝達の代わりに、手話をコミュニケーション手段の1つとして利用している。日常生活ではNHKテレビの手話講座「みんなの手話」をはじめ、手話通訳付きのテレビ放送など映像メディアの中で手話に接する機会が増えつつある。

図1に示すように、手話は、話し手が伝達したい情報を表情が付加された身振り動作により受け手に伝える一種の視覚言語である。手話動作のうち、手の型・掌の方向・位置・動きの4つの構成要素は、手指動作と呼ばれている。また、表情・口形・うなずきなどの要素は、非手指動作と呼ばれている。

国内で用いられている手話は、その文法的な特徴と音声言語との関連から表1のように大きく3つの種類に分類される。このように、手話は生活習慣や環境などの影響を大きく受ける言語であるため、地域性が強く各地で手話の表現形式が異なってくる。この問題を解決するため、日本では全日本聾唖連盟を中心として、手話表現の統一化について検討が進められている。

欧米の手話研究は進んでおり、すでに一つの言語学体系として確立している国もある。一方、わが国ではようやく日本手話の言語学的研究が盛んに行われるようになり、一つの言語体系として認める気運がでてきた。

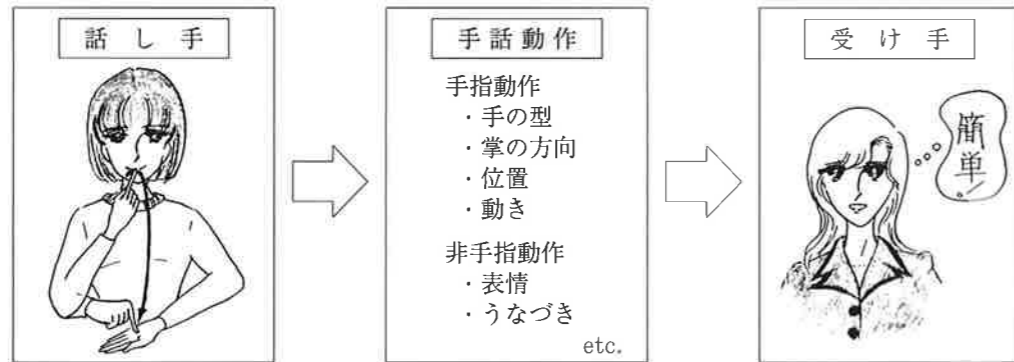


図1：手話による情報伝達の過程

また最近、手話に対する関心が高まり、手話を学際的に研究する手話工学研究が注目されつつある。工学的な研究の一環としては、日本語と手話の相互翻訳システムを開発している大学や企業のグループがある。

筆者も、工学および言語学の両面から手話を解析し、図2に示すような手話と日本語の相互翻訳を究極の目標としたシステムを検討している。このシステムは、提案しているNVS形態モデル、音声表記モデルを中心とした電子化辞書を用いて、日本語から手話、逆に、手話から日本語への翻訳を行う。手話の入力には、高価なデータグローブなどではなく非接触なカメラからの映像を用いているところに特徴がある。一方、手話の表示は辞書内の音声表記記号からアニメーションを自動生成する。

それでは、制作中のシステムの概要を簡単に述べる。

2. 手話言語解析部

1. に述べたように、手話は日本語や英語と同様に1つの言語である。したがって、翻訳を行うためには手話を言語学的かつ工学的に解析しなければならない。そこで、音声言語学的解析手法をとりいれ、新しく階層的な形態音韻論モデルとしてNVS形態を提案した。さらに、このシステムの音声表記モデルは、英語などの発音記号(IPA International Phonetic Alphabet)と同様に、表記のみから手話の動きを理解することなどができ、アニメーションの生成にも役立つように設計した。手話単語「歩く」のNVS形態および音声表記例を示す。

{歩く} := N(#CL) V(#Move) := {h+h₁₂} → h-

表1：日本における手話の種類と特徴

| 手話の種類 | 特徴 |
|---------------|---|
| 日本手話 | <ul style="list-style-type: none"> 聾者が用いる手話 日本語文法とは異なる文法体系をもつ 地域性や個性が強く現れる (方言と個人語) |
| 日本語対応手話 | <ul style="list-style-type: none"> 手話化あるいは手指化された日本語 日本語概念の習得を目的に作られた (人工手話) 助詞、助動詞も表現する |
| 中間型手話 (ビジン手話) | <ul style="list-style-type: none"> 日本語と日本手話が混在した手話 各語は主に日本語手話の語を適用する 語順はほぼ日本語文章に従う 通訳などの場面でよくみられる |

3. 3Dアニメーション生成部

このアニメーションは、汎用のパソコンで生成できる。また、右眼と左眼画像を交互に表示する機能があるため、1,000円程度の液晶シャッター眼鏡をかけることにより両眼視差画像で立体的に見ることもできる。これにより、手話で大切な空間の3次元的位置が容易に理解でき、学習システムにも好都合となっている。このウィンドウ風な表示例(右眼画像)を図3に示す。このシステムでは、光ビデオディスクからNHK手話ニュースでお馴染みの中野佐世子さんの映像も検索し、見ることができる。

4. 手話認識部

手話を認識するには、手の形、提示する位置および手の運動軌跡の理解が必要である。

現在、単眼カメラで撮影した上半身の静止画像から手の形を、動画像から運動軌跡を認識する方法の研究を進めている。

5. 今後の展望

聴覚障害者と健聴者のコミュニケーションの円滑化を目指すための支援システムとして、3D手話翻訳システムの概要について簡単に述べた。本システムは、マルチメディア電子化辞書としてCD-ROM化も容易に行える。

聴覚障害は目に見えない障害であるため、他の障害福祉と比較すると若干立ち遅れている。今後、様々な分野から研究が進められ、障害者のコミュニケーションギャップが軽減されることを期待する。

最後に、未来を視野に入れた“地球にやさしい”研究や機器の開発がますます盛んになることを切望する。

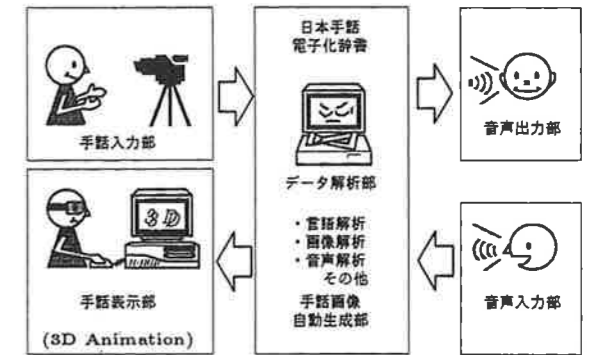


図2：相互翻訳システム



図3：3Dアニメーション表示例

● 学園だより

学園本部

- (1) 平成6年度の学園関係者の叙勲叙位の方は下記のとおりです。
 - 従五位 故 故 麦島 典 名誉教授
 - 正四位 故 故 天草 卯 名誉教授
- (2) 今井 功 顧問、名誉教授は、平成6年12月12日に行われた日本学士院会員補充選挙において日本学士院の新会員に選出されました。
- (3) 雇用保険制度の適正事務と円滑な運営に対して平成6年12月1日付で労働大臣表彰を受賞す。

大 学

教務部長 水野 宏道

○本年度入試の状況

本学の入試は多様な能力、適性を選択する目的で、第1部は推薦入試(指定校、本学高校、理科・科学論文)、編入学、一般入学(前期、サテライト、後期)、第2部は推薦入試(公募、社会人、本学高校)、編入学、一般入試に分けている。このうち、推薦入試、編入学は昨年末までに終了した。

第1部の一般入試はサテライト(大阪、北九州、仙台)を含め2月6日～9日、後期入試は3月6日に実施し、それぞれ9,905名、1,594名の志願者があり、前年比3.5%、33%の増加であった。また、本年度より大学入試センターのセンター入試を採用し4,815名の志願者があった。第2部の一般入試は3月7日に実施し、志願者は1,076名で前年比較で5%となった。多くの大学が志願者を減らし、受験界の予想に反して本学の志願者が増えた実績は喜ばしいが、昨年は約25%減少しているため油断は禁物である。より多くの受験生を獲得する全学的取り組みが必要と認識している。

編入学に関しては第1部に17名、第2部に136名の応募があり、それぞれ前年の2倍、3倍の急増である。特に、第2部の社会人再教育需要は今後共増傾向が見込まれ、受入れに対する積極的な取り組みが必要な時期にある。

高等教育機関として大学院の充実が重要である。また、修士課程修了者への社会的ニーズも高く、学内外の志願者も増加している。

昨年度より既設四専攻に加え情報学専攻がスタートした。社会人の受け入れを考慮し情報学専攻は昼夜開講制を実施した。既設四専攻も本年度より実施に向け昼夜開講制と電気工学専攻を除く定員増を文部省に申請中である。大学院の充実、活性化は研究、教育の両面に寄与し、大学の社会的評価を高める原動力になる。本年度より Semester制を導入し4月と10月の入学を可能とする。平成7年度の大学院在籍者は修士課程1年204名、2年190名、博士課程17名である。

○大学のアクティビティ

18歳人口の減少、青少年の理系離れが顕在化している。本学は生存と発展を掛け教育の特色発揮、研究活動の高度化、広域化に対応する組織化、社会に対する貢献を具体的、積極的に推進している。

第1部は大学設置基準の大綱化に沿う新カリキュラムを本年度入学生より実施する。学生の多様な能力、適性を最大限に伸ばす内容と科目選択の枠を拡大した。教育効果を高め、学生の自主的学習を促す環境を整えることが重要である。第2部は社会人の再教育、多様な教育需要を配慮し、本年度よりカリキュラムを含む大幅な改革に着手する予定である。校友会会員の皆さんの御支援を切にお願いしたい。

研究活動を組織化し、支援するため昨年度より総合研究所が発足した。研究の高度化、広域化に対応した助成を行うと共に、研究活動と成果公表の一元化を推進するのが目的である。国際化に対応し海外における研究発表を助成する制度は教員のほか大学院生にも適用され、年を追って発表件数は増加している。

大学の教員は教育のほか、研究活動を通して将来の研究者を育成し、研究の成果は公表する義務を負う。学協会の学術活動と運営の支援、学協会や官公庁における法令、規格の制定に参加するなどの社会活動も行っている。また、大学には研究成果や専門知識を広く社会に還元する啓蒙活動が求められている。本学の生涯学習センターは社会のニーズを先取りし、一般市民を対象とする公開の各種講座、シンポジウム、講演会を開催し、開かれた大学として積極的に地域社会への普及運動を展開し高い評価を得ている。新宿キャンパスを利用した国際会議、学会、学術上の展示会、本学と共催の講演会などが頻繁に開催されている。

本学が昨年度より実施した新たな活動に「全国高等学校理科・科学クラブ研究論文募集」と「大学の先生と楽しむ理科教室」がある。高等学校の理科・科学クラブの活動を支援し、優秀な研究成果に対する表彰と推薦入学枠を設定したこの企画に対し、全国的な反響は大きかった。初の試みにもかかわらず全国から121件の申し込み、95編の応募があった。大学教授による厳正な審査により最優秀賞1編、優秀賞3編、努力賞11編を選考し、審査評を付し公表した。上位4編は10月31日、創立記念日典に各高校教諭1名、生徒2名を招待し学長より表彰を行った。この制度による推薦入学者は5名であった。この企画は本年度も発展的に継続する。

理科教室は小中学生を対象とし、不思議な科学現象、面白い実験など54の演習テーマを用意し、八王子市、日野市、相模原市の各教育委員会の後援を得て、夏休みも終りに近い8月20日に八王子キャンパスを開放して実施した。この体験学習には当初予想を上回る1,200名の参加者があった。参加した小中学生の気も上々であり、マスコミにも採り上げられ予期以上の成果を得た。この催しは大学教員と職員、付属高等学校の教諭と卒業生、学生と生徒諸君の全学的協力体制で実現したものである。大学と高校、教員と職員の連帯感が生まれた意義も大きい。この企画は後援を御願する教育委員会の範囲を広げ、演習テーマをより充実して本年も実行する予定である。

本学は建学以来、有能な人材を多数輩出しているが地味であり、知名度も低い。独自の活動を通じ、本学の存在感を高める努力を全学的に積極的に展開する。

専門学校

◆成績優秀学生表彰(10月31日)

学園創立107周年記念日に、下記の学生が成績優秀者として表彰された。

◇月原奨学生

| | | |
|-----|------|-------|
| 昼間部 | 電子2年 | 井川 俊之 |
| | 応化2年 | 遠藤 晶子 |
| 夜間部 | 土木2年 | 三上 優子 |
| | 建築2年 | 岡野 圭子 |

◇岩城奨学生

| | | |
|-----|------|-------|
| 昼間部 | 機械2年 | 鈴木 秀人 |
| | 電技2年 | 石井 聡 |
| 夜間部 | 応化2年 | 敷島 保男 |

◇鈴木奨学生

| | | |
|-----|------|-------|
| 昼間部 | 建築2年 | 小坂 英忠 |
|-----|------|-------|

◇工学院大学専門学校奨学生

| | | |
|-----|------|-------|
| 昼間部 | 土木2年 | 遠藤 貴之 |
| 夜間部 | 電子2年 | 萩原 清邦 |

◆東京都専門学校野球大会

◇第19回春季大会

| | |
|-------|-----------------------|
| 5月16日 | 開会式(府中球場) |
| 5月17日 | 1回戦(東綾瀬球場) |
| | 日本スクールオブビジネス 2:11(敗戦) |

◇第9回選手権大会

| | |
|-------|------------------|
| 7月5日 | 開会式(杉並区立公会堂) |
| 8月24日 | 1回戦(夢の島球場) |
| | 東京外語専門学校 0:4(敗戦) |

◇第19回秋季大会

| | |
|--------|--------------------|
| 10月13日 | 開会式(杉並区公会堂) |
| 10月18日 | 1回戦(東綾瀬球場) |
| | 東京栄養食料専門学校 (試合不成立) |

◆東京都専門学校サッカー大会

◇第13回春季大会

| | |
|-------|------------------|
| 5月25日 | 1回戦(江戸川篠崎グラウンド) |
| | 国際音楽学校 5:0(不戦勝) |
| 5月31日 | 2回戦(江戸川篠崎グラウンド) |
| | 東放学園専門学校 3:6(敗戦) |

◇夏季大会

| | |
|-------|------------------|
| | 1回戦 不戦勝 |
| 8月29日 | 2回戦(駒沢競技場) |
| | 東京会計専門学校 1:0(勝利) |
| 8月30日 | 3回戦(駒沢競技場) |
| | ビジュアルアーツ 0:4(敗戦) |

◇第13回秋季大会 不出場

◆省エネカー競技会(自動制御研究会)

◇第1回 波崎省エネカー燃費競技大会

6月12日に茨城県波崎町 住友金属波崎研究センター 特設コースで行われ、総合24位(専門学校2位)の成績を収めた。

◇第14回 ホンダ・エコノパワー燃費競技全国大会
9月17、18日に茨城県谷田郡、日本自動車研究所・高速周回路で開催され、専門学校の部で10位の成績であった。

◆ソーラーカー競技会(自動制御研究会)

'94ワールド・ソーラーカー・ラリー・イン・アキタ 7月28、29日に秋田県大潟村「大潟村ソーラースポーツライン」で開催され、「ワールド・ソーラーバイシクル・レース」で100kmを完走し結果は18位であった。

◆後援会総会(6月25日)

年1回の定例総会が多数の会員の参加で開催された。総会終了後、各クラス担任との懇談・個人面談を行った。

◆第15回電卓検定試験(7月3日)

受験者数 185名 合格者数 152名 合格率82.2%
全国平均の合格率は 76.6%

◆体育実技授業(昼間部)

A日程 7月17日～21日
テニス サッカー バレーボール 卓球



B日程 8月31日～9月4日
テニス ソフトボール
C日程 2月26日～3月2日
スキー

◆建築科研究科卒業式(10月4日)

第31回を数える今回は、45名の卒業生を送り出した。式終了後記念パーティーを行い門出を祝った。

◆東京都公害防止管理者2級合格者(平成5年度)

| | | | | | |
|-------|-----|----|-------|-------|-------|
| 応用化学科 | 昼間部 | 2年 | | | |
| | | | 浅見 和彦 | 安彦 光朗 | 阿部 麗 |
| | | | 杉山 勝 | 田中 太朗 | 成山 英一 |
| | | | 林 秀樹 | 廣岡 有文 | 山岸 卓也 |
| 応用科学科 | 夜間部 | 2年 | | | |
| | | | 島田 和亮 | 富永 雅美 | 根本よう子 |
| | | | 藤川 勉 | | |

高等学校

○一般教室の空調工事が完了

長年の課題であった一般教室の空調工事が完了し、各教室にはクーラーが設置され暑い日には涼しく快適な教室で勉強することができるようになりました。

○美術室の移転工事が完了

中学校の開設に伴い陶器を焼くための釜を設置したり、さらに生徒の学習環境を整えるために面積も広げるなど美術室の拡充計画を立て、工事をして平成7年3月末に旧柔道場に移転しました。

○放送部（顧問 渡部知弥）

平成6年度の放送部の活躍は、第41回NHK杯全国高校放送コンテストテレビ部門に、「サケよ帰れ多摩川に」を出品し、東京都大会で優勝。第18回全国高等学校文化祭では、ビデオレー部門で東京都代表として、「図書館オープニングセレモニー」を出品し、文化連盟賞。平成6年度東京都高等学校文化祭には、テレビ部門に、「休み時間がほしいよ〜」を出品し、優勝。アナウンス部門で2年7組小林陽一君が入賞しました。

テレビ部門はいずれも社会性を話題にした作品でしたが、構成もよく好評をいただきました。

部員一同来年度の作品に精を込めている昨今です。

○サッカー部（顧問 佐藤 勝）

我々サッカー部は平成6年度新入部員を加え総勢78名でスタートしました。グラウンドが狭く練習には大変苦労していますが、工夫と努力により克服しています。その結果、地区予選では負けることなく全ての大会で都大会に出場する事が出来ました。今後は都大会においても上位を担えるチームになれる様努力していきたい。

〈主な大会結果〉

平成5年11月 新人戦兼関東大会地区予選ブロック優勝
6年4月 関東大会都予選出場
5月 インターハイ地区予選ブロック優勝
5月 インターハイ都大会出場
9月 全国高校サッカー選手権大会都大会出場
11月 新人戦兼関東大会地区予選ブロック優勝

平成7年4月 関東大会都大会出場決定
（都大会は第7地区49校の代表として、また地区選抜チーム（17名）に本校より2名が選抜されて、国体代表選手（東京選抜）一次選考の大会に出場しています。

○野球部（部長 宮澤義勝 監督 高橋憲治）

ここ数年野球部は西東京大会では上位に入る常連校の上上がった。平成6年度も宿敵国学院久我山にベスト8で激突し延長10回退敗した。また秋季大会は昨年と同じカードとなり日大三高に惨敗した。しかし近い将来夢の甲子園のキップを手にする様今日も練習に力が入っている。ご声援をよろしく願います。



体育館エントランス

| | | | |
|------|------|----------|------|
| 平成3年 | 準決勝 | 対 国学院久我山 | ベスト4 |
| 平成4年 | 準決勝 | 対 創価高校 | ベスト4 |
| 平成5年 | 準々決勝 | 対 国士館高校 | ベスト8 |
| 平成6年 | 準々決勝 | 対 国学院久我山 | ベスト8 |

○生徒会活動

3年前から始めた缶とビンのリサイクル活動が活発となり、新聞などマスコミにも紹介されるようになりました。他校からも問い合わせがきたり、見学にきたりするほどです。社団法人食品容器環境美化協会からは功績が認められ、「空き缶圧縮機」（つぶしアルミとスチールに分別する機械）50万円相当の機械が贈呈されました。今後も続けてゆき校内美化、資源問題に真剣に取り組んで行きたいと思えます。また、1月には阪神大震災の義援金活動も校内で行い約14万円を寄付しました。

○文化セミナー

平成6年10月20日（木）八王子市民会館において、「第4回文化セミナー特別講演」が開催されました。今年は東京都生活文化局の協力を得て、アジアの恵まれない子供達への支援を続けている八王子在住の写真家 木下健氏を講演者としてお招きし、「ひりとだけのNGO」の演題で講演していただきました。

○進路状況

2月22日現在の進学者の内訳は工学院大学I部に187名、II部に77名、その他の大学として、東京農工大学、多摩大学、創価大学、鶴見大学、日本大学、東京工芸大学、日本体育大学、明星大学、西東京科学技術大学、職業能力開発大学校、亜細亜大学、東北芸術大学、九州共立大学、愛知産業大学、日本文化大学、帝京大学、CICカナダ国際大学、セイラム大学、東海大学短期大学へ合計25名、工学院大学専門学校に6名、他専門学校に28名で、就職に12名、未定は74名（受験中を含む）です。

○入学応募状況

平成7年度の入学応募状況は推薦入学定員男子200名に対し197名、一般入学定員男子200名に対して、1,089名があった。

●学園だより

学園の活動状況

平成6年度の学園の活動状況を学園の刊行物の中から抜粋し、要約して広く校友の皆さんにご紹介します。尚、下記情報資料は、学校企画部からご提供頂いたものであります。厚く御礼申し上げます。
（校友会企画部、広報部）

大学院

1) 情報学専攻修士・博士課程新設

平成6年4月大学院工学部に情報学専攻の修士・博士課程を同時開設。社会人特別選抜制度を取り入れ、社会人に開かれた大学院づくりの第一歩をスタート。

2) 大学院公開講座

第一生命保険相互会社、日本生命保険相互会社の後援とエステック株式会社の協賛による大学院公開講座を開設し、開かれた大学としての新しい教育事業を展開させた。平成6年度は3回実施し、企業の技術者や研究者等から大変な好評を頂いた。因みに第2回の時は500名を越す参加者で、この種の科学系公開講座としては、異例の盛況ぶりであった。

3) 大学院生の海外研究の助成

本学では、大学院生の研究活動の支援をしており、平成6年の申請は7件あった。院生の海外研究補助を行っている大学は、全国でもあまり多くはない。この制度の一層の充実が求められている。

大学

1) 理科・科学教育振興事業

①全国初の第一回『全国高等学校理科・科学クラブ研究論文推薦入学制度』による推薦入学試験資格を付与し、数名を採用して関係機関から評価された。平成7年度も引き続き実施することとして、募集要項等を昨年末に全国の高等学校に郵送した。

②小学高学年および中学生を対象に、単一大学では最大規模の（わくわくサイエンス祭）『大学の先生と楽しむ理科教室』を平成6年8月に実施し、地域社会から大きな注目を集めた。



2) 伸びた企業に占める本学卒業生の割合

「週間ダイヤモンド」（11・19号）調査によると、伸びた企業に占める本学卒業生の割合は、他大学を大きく引き離し、総合大学を含む全大学中第3位である。他大学が苦戦している中、早くからほぼ全員内定している。あた女子学生の内定率が高いことも特筆される。

3) 文部省の科学研究補助金

文部省が交付している、科学研究補助金の取得額は、本学は平成5年度に総合大学（工学系部科）を含む全私立大学中で全国7位であった。これは、本学の研究活動が活性化している現われである。

4) 教育環境の整備

新宿校舎は、高層棟・中層棟共全館冷暖房を完備している。八王子校舎は、冷暖房装置のない教室もあったが、平成6年の夏、全教室に冷暖房装置を設置し、学習環境を整備した。

学校法人工学院大学 学園広報紙

『窓』の定期購読のおすすめ

学校法人工学院大学の最新情報を満載した学園広報紙『窓』の定期購読をおすすめ致します。

現在、約1,000名のOBの方々に定期購読を頂いております。購読料は、2年間（年4回発行）で送料共1,000円です。

お申し込みは企画部へお願いします。

電話 03(3342)1211(代表)

学校法人工学院大学・学園広報委員会